
サンタクロース

summer

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

サンタクロース

【Nコード】

N9427P

【作者名】

summer

【あらすじ】

クリスマスイブにプレゼントをくれるのは・・・

「きいてよ、ママ！みんなひどいんだ！」

「まあ、どうしたの？雪も払わないで。玄関が雪だらけだわ・・・」
雪深い町外れの家に、学校から息子が帰ってきた。小さなログハウ
スだったが、親子3人で暮らすには十分だった。

息子は、外した手袋を握りしめながら続けた。

「みんなが、サンタクロースなんていないっていうんだ。クリスマス
スイブの夜、くつしたにプレゼントを入れてくれるのはパパだって
いうんだよ！」

「そう・・・」

ママは息子のコートを脱がせ、息子の大好きなクッキーとココアを
テーブルに出して、なんとかその話をこまかそうとした。

「でも、毎年クリスマススイブの翌朝には、枕元の靴下にちゃんとプ
レゼントが入っているじゃないの。きつと今夜のクリスマススイブだ
ってプレゼントをもらえるわ。今年もパパはお仕事が忙しくていな
いけれども・・・」

「そうでしょう？だからボクは言ってやったんだ。『もしサンタク
ロースがパパだったら、ボクはプレゼントをもらえないはずじゃな
いか、ボクのパパはいつも仕事でいないんだから・・・それにパパ
になんかボクの欲しいものを言っていないから、ボクが何を欲しいか
なんて知ってるはずがない』って。」

「そうね・・・」

ママは少し困った顔をして言った。

そしてその夜、ママと息子は2人でクリスマスパーティーをした。
息子は『サンタクロースが来るのを待つ』といつもよりずいぶん遅
くまで起きていたが、いつのまにかソファーで寝てしまった。
ママが息子をベッドに移した頃、玄関のドアが静かに開いた。

「おかえりなさい、パパ。」

「ただいま。すまん、去年よりは急いだんだが・・・それにまたすぐ行かなければならない・・・」

「仕方ないわよ・・・この子もいずれ分かってくれるわ。」

ママは今日の息子の事をパパに話した。

「そうか・・・パパじゃなくて、サンタクロースを待っていたのか・・・」

パパは淋しそうに息子の髪をなでてから、枕元の靴下に息子の欲しがっていたプレゼントを入れた。

「パパがおまえの欲しいものを知らないはずないじゃないか。毎年クリスマスイブに世界中の子供達にプレゼントを届けている、この私が・・・」

パパは雪のついた赤い三角の帽子を脱ぎ、立派な白いひげを手でよけながら息子の額にキスをした。

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になろうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連に横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能^{たんのう}してください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n9427p/>

サンタクロース

2011年1月8日21時45分発行